

第1回 成田・羽田両空港間及び都心と両空港間との 鉄道アクセス改善に係るワーキンググループ

議事概要

1. 日 時：平成20年11月18日（火）10:00～12:00
2. 場 所：中央合同庁舎3号館 11階特別会議室
3. 出席者：別紙参照
4. 主な議題
 - (1) 平成19年度調査のレビュー
 - (2) 平成20年度調査における検討内容 等
5. 議事概要及び発言の要旨
 - (1) 成田・羽田両空港間及び都心と両空港間との鉄道アクセス改善の意義・必要性
 - ・ 成田・羽田両空港を結ぶことは重要であり、整備されることで空港の利便性向上に貢献する。
 - ・ 成田・羽田両空港間の鉄道アクセス改善は、地方空港から羽田を経由し成田から海外へ向かうという需要に対して、航空ネットワークの観点からも大変重要である。
 - ・ 国際競争力の面からも、成田・羽田両空港と都心とのアクセスを更に高めるべきである。
 - ・ 成田・羽田という巨大な2空港が結ばれることで、中継地点である都心部のポテンシャルは更に向上する。また、都心部以外でもポテンシャルの高い地域が生まれ、結果的に地域が恩恵を受ける。
 - ・ どちらの空港へも速くアクセスできるという利便性は世界的にも稀であり、東京のポテンシャルは飛躍的に向上する。
 - ・ 成田・羽田両空港間のアクセスが改善されることは、結果として、横浜方面等の他のエリアからのアクセスが改善されることに繋がる。
 - (2) 検討内容等
 - ・ 既存路線の改良という点だけにこだわることなく、成田・羽田両空港と都心とのアクセス改善の観点から、幅広く拠点となるべき場所を検討し、そのメリット等を整理する必要がある。
 - ・ 施策によっては、長期間を要するので、検討にあたっては時間軸を入れて整理する必要があるのではないか。
 - ・ 成田・羽田両空港が結ばれば沿線の資産価値にも影響するので、その点も含めて評価すべきである。
 - ・ 空港需要以外の都心部への通勤等の利用形態もあるので、そういった点に着目することも必要である。
 - ・ 空港アクセスには様々なモードがあるので、それぞれの特性も加味したうえで需要予測を行うことが重要である。
 - ・ 短絡線のルート案については、前年度調査を深度化させ多様な視点で評価し、需要をしっかりと見極める必要がある。
 - ・ 成田・羽田両空港を結ぶことで、利用者のみならず、成田、羽田の周辺の地域が恩恵を受ける。それらの定量化等は難しいが、地域のポテンシャルの向上に効果があることを踏まえるべき。
 - ・ 成田・羽田両空港間の乗継客以外にも、成田空港に近い地域の住民であっても羽田空港を利用するという実態等を考慮する必要がある。

以上